

1 学校教育目標 えがお かがやく 高小の子供 ～「時を守り 場を清め 礼を正す」～	2 本年度の重点目標 「時を守り 場を清め 礼を正す」を人間形成の土台と捉え、この徹底を図りながら、ますます『えがお かがやく 高小の子供』を育てる。重点は、「自律」「整理整頓」「言葉遣い」「生活習慣」の4つである。
---	--



3 目標・評価

①本校の特色

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
学校運営	●志を高める教育(郷土愛)	・佐賀や日本の導き手を育成するための地域(家庭)の協働意識の向上	・「学校は地域(家庭)と連携して、特色ある教育活動を行っている」と答える児童を80%以上にする。	・地域住民(保護者)に学校行事への参加・参画を依頼する。 ・児童が地域行事に参加しやすいように、地域からの情報を学校でも伝える。 ・職員も年間3回を目標に、PTA・地域行事(夏祭り、文化祭など)に参加・参画する。	総務	主幹 指教 教頭
教育活動	○人間形成の土台づくり	・「時を守り 場を清め 礼を正す」態度の育成	・「『時を守り、場を清め 礼を正す』に気を付けて生活している」と答える児童を90%以上にする。	・朝の放送、昼の放送の時、「時を守り、場を清め、礼を正す」という言葉から始めることで、常に児童に意識させる。	総務	主幹 指教 教頭
教育活動	○「ほめほめ活動」	・自己肯定感・自己有用感の高揚	・「友達のよいところを認め、ほめている」と答える児童を80%以上にする。	・各学級で、帰りの会等を利用して、級友を認め合う。 ・給食の時間に「ほめほめタイム」を実施し、全校児童を呼名してほめ合う。 ・計画委員会で「ほめほめポスト」を設置し、「友達の善行」してもらってうれしかったことを募り、紹介する。	総務	橋口 教頭 主幹

②[時(知)]「自律」

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
教育活動	●学力の向上	・自律的活動を誘発する授業の構築	・「授業中、自ら進んで学習活動(発表、交流など)に取り組んでいる」と答える児童を80%以上にする。	・交流活動(学び合い)と、自己評価活動(ふりかえり)を学習過程に位置付ける。 ・交流活動と自己評価活動を通して、既習の学習内容や他者の考えを生かし、自分の考えをよりよいものにするよう意識を高める。	まなび部	前田 高木
		・自律的活動を誘発する家庭学習の創造	・「自ら進んで家庭学習に取り組んでいる」と答える児童を80%以上にする。	・授業と関係付けた宿題の出し方や自主学習の在り方を検討し、発達段階に応じた内容や量を提示する。 ・家庭学習の手引きを配布し、連絡帳、電話、家庭訪問、通信などを通して家庭(保護者)と連携して家庭学習習慣の定着を図る。	まなび部	高木 前田

③[場(徳)]「整理整頓」

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
教育活動	●心の教育	・整頓の意識付け	・「履物をそろえている」と答える児童を80%以上にする。	・靴や上靴、トイレのスリッパは、周りの人に配慮し、そろえるように指導する。 ・ISOチェックシートを使って、毎日意識付けを行う。	くらし部	坂田 江口貴
		・無言・無音掃除の徹底	・「話をせず音も立てずに、掃除をしている」と答える児童を80%以上にする。	・掃除時間の前には掃除場所を待ち、始まりとともに黙想をし、心を落ち着かせて無言・無音掃除をするよう指導を徹底する。 ・掃除前に全校放送を行うことで、無言・無音掃除の意識付けを図る。	くらし部	徳久 江口貴

④[礼(徳)]「言葉遣い」

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
教育活動	●心の教育	・やさしい言葉遣いの推進	・「『さん』を付けて友達を呼んでいる」と答える児童を80%以上にする。	・児童の人権を尊重し、教師自らが模範を示すことで、「さん」を付けて呼ぶことを意識させる。	こころ部	梶浦 近藤
		・正しい言葉遣いの徹底	・「目上の人に、『です』『ます』の敬体で話している」と答える児童を90%以上にする。	・「時・相手」を視点に置いた指導を継続するとともに、授業中の発表の際には、返事を怠ることなく、最後に「です」「ます」を付けることを徹底させる。	こころ部	梶浦 近藤

⑤[体(時・場・礼の基盤)]「生活習慣」

教育活動	●健康・体づくり	・早寝早起き朝ごはんの習慣付け	・「早寝早起き朝ごはんを意識して生活している」と答える児童を80%以上にする。	・「すこやか点検」で、項目に「10時までに就寝」「決めた時刻までに起きる」「朝ご飯を食べる」を入れ、集計をとる。 ・保健便り、給食便りで、早寝早起き朝ごはんの大切さを呼びかける。	からだ部	静山 鶴田
	○あいさつ	・「高小流あいさつ」の習慣付け	・学校や地域(家庭)でも、「時と場の状況に応じて、『立ち止まって、お辞儀をして』あいさつをしている」と答える児童を80%以上にする。	・毎朝、計画委員会で「あいさつ運動」を実施し、毎日、給食時間に「あいさつ名人」を紹介する。 ・全校朝会で「高小流あいさつ」を紹介し、学期1回、「あいさつ名人」を発表し、「あいさつ名人バッチ」と賞状を与える。	からだ部	静山 鶴田

⑥重点に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
教育活動	●いじめ問題への対応	・楽しい学校生活の構築	・「友達と楽しく学校生活を送っている」と答える児童を90%以上にする。	・日々の児童の言動等を注視するとともに、毎月「こころのアンケート」を実施することで、積極的にいじめを見付け、早期に対応する。 ・気がかりな児童には、個別の対応を継続する。	こころ部	近藤 梶浦
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	・校務効率化の促進	・勤務時間を意識した働き方を定着させる。	・部会分掌とともに、学年主任と部長の分離、ミドルリーダーの重責化を促進し、業務の平準化を図る。 ・会議数を精選し、学期末1ヶ月間は特別校時にする。 ・金曜日を定時退勤日とし、声を掛け合う。	総務	教頭 主幹

●は共通評価項目のうち必須項目、○は独自評価項目